

神は御子にあって語られた

2024年2月25日

ヘブル人への手紙 1章1～4節

I. ヘブル人への手紙について

- (1) 著者：①パウロ
②パウロ以外（アポロ、クレメンス、シルワノ……第二世代の人）
- (2) 宛先：①エルサレムのユダヤ人キリスト者
②アレキサンドリアのユダヤ人キリスト者
③ローマのユダヤ人キリスト者
- (3) 執筆年代：A.D. 60～70（A.D. 67頃？）
皇帝ネロの激しい迫害（ペテロ、パウロの殉教）
A.D. 68没 A.D. 64～66

ローマ軍によるエルサレム陥落 A.D. 70
- (4) 背景：著者は読者の様子をよく知っている、個人的に親しい特定の人々
教会全体ではなく、ひとつの群（教会の集まりから離れたグループ）
初めは熱心な信仰生活 ⇒ 現在の信仰の歩みは弱く停滞していた
倦み疲れ、無気力、希望なし、世に戻る
背教の危機にさらされていた
実際、背教者も増えていた（迫害への恐れ）
- (5) 目的：迫害下にある読者に、警告、戒め、励まし、信仰を奨励
キリスト教（福音）の絶対性、永遠性を教え諭す
ユダヤ教を超え、後代のすべての宗教を超越した
究極の無比の宗教であると論証
- (6) 内容：イエス・キリストによる贖いと救いは永遠
神の契約も聖徒たちが受け継ぐ相続資産も永遠
キリスト教の完全性と永続性

①キリスト論（神、神の御子、大祭司）
②その贖罪の御業
③信仰、信仰の働き

II. 御子による神の啓示

ヘブル書 1・1～4

- (1) 啓示（神のご計画を知らせる、中心は罪人の救いと完成）の付与
昔 ①預言者たちによって
②多くの部分に分けて（一度にすべてではなく）
③多くの方法で（直接語りかける、夢や幻によって、奇跡的実体験、等）
④先祖たちに語られた

今・終わりのとき

- ①御子にあって（御子によって、御子を通して）
②（上の④）私たちに語られた

(2)御子はどんな方か

- ①父によって万物の相続者と定められた方
- ②世界の創造主（父は御子によって世界を創造）　コロサイ 1・15～17
- ③神の栄光の輝きの完全な現れ
- ④神の本質の完全な現れ　∴ 父なる神を知るにはイエスを見よ
イエスに聞け
父と子は一体　ヨハネ 14・6～11
- ⑤力あるみことばによって万物を保持・統治
創造の御業もみことばによってなされた
- ⑥罪人を罪と死から贖い、聖とし義とされる救いの業を完遂なさった
- ⑦昇天（高举）、父の右の座に着座しておられる
- ⑧御使いよりもまさる、すばらしい方（御使いではなく、神だから）
||
5節以下の繋ぎ、橋渡し

Ⅲ. 結び

- (1) いつの時代にも、信仰者の信仰はふるわれる
あるときは迫害によって
別のときは繁栄、安穩無事によって
- (2) ふるわれることで、真偽が明らかになる
眠りから目を覚まし、あるべきところに立ち返る
後の歩みが堅固なものとなる
- (3) 今の私たちも同じく信仰をふるわれている（自覚or無自覚）（感覚が鋭敏or鈍感）
- (4) 終わりまで信仰の道を歩み通すには
 - ① キリストによる罪の贖い救いを受けていると確信（by 聖霊と神の契約）する
みことば
 - ② イエス・キリストを知る＝神を知る
贖い主（救い主）
大祭司（神と人との仲介者）
 - ③ 信仰から信仰へと目当て（救いの完成・御国）に向かって日々進む